

平成 17 年 4 月 23 日

講演会「思想史的背景からみたブッシュ政権」に参加して

阿部哲夫

日時： 2005 4-23

講演者： 中岡望氏(フリージャーナリスト、元東洋経済編集委員)

題目： 思想史的背景から見たブッシュ政権

主催者： 倶進会

講演内容：

アメリカの“反共、小政府、マーケット中心、自己責任”を掲げる保守への潮流は、50 年も前から始まっている。

彼等の最初のチャレンジはゴールドウォーターを担いでの大統領選だった。その時は敗退したが、それ以来着々と思想、政治力の両面で力を蓄えてきた。レーガンはこの流れの人物だ。今では保守・共和党は国民にアピールするメッセージ・ストーリーを持っているが、対するリベラルの民主党は、そのメッセージ・ストーリーを持っていない。リベラルで発言しているのは、クルーグマンぐらいしかいない。

彼等保守派は世界戦略を持ち、国連など信用していない。日本の常任理事国入りについても、拒否権を渡すつもりなどない。所得税を廃止し、消費税一本にするのが彼等の考え。また福祉はコミュニティの責任で、国の責任ではないという考え。

彼等の戦略は、ラッセル、ウィーバーの思想、フリードマン等の経済政策に基礎を置いているので、最近の日本のご都合主義的な対策ではとても太刀打ちできない。

アメリカの最高裁は日本と違って大きな力を持っている。ここを保守が取るか、リベラルが取るかで、アメリカの方向は大きく影響を受ける。

ブッシュは最初はネオコンと必ずしも結んでいなかった。9・11 をきっかけに結ぶようになった。